



Down syndrome explained

ダウン症の説明

Produced by
発行

 **Down Syndrome
International**

はじめに

このガイドでは、ダウン症のある人たちに関する重要なトピックのいくつかを、コンパクトにまとめて紹介しています。

これらのトピックについてもっと知りたい方は、私たちのウェブサイト (www.ds-int.org) にある「Down Syndrome Explained (ダウン症の説明)」のページをご覧ください。



ご質問や必要なサポートがある場合は、こちらまでご連絡ください。

Email: contact@ds-int.org 電話: +44 (0)1395 493108

あるいは、お住まいの国の当組織までご連絡ください。

連絡先の詳細は、グローバルコンタクトのページ - www.ds-int.org/Pages/Category/global-contacts でご確認ください。



もくじ

ダウン症とは?	4p
親になる.....	5p
健康	11p
子どもの健康	12p
成人の健康	16p
教育	21p
就労.....	29p
アドボカシーと人権.....	33p
インクルーシブな参加.....	38p
研究	40p
世界ダウン症の日	41p
DSiについて	42p

ダウン症とは?

ダウン症（またはトリソミー-21）とは、染色体が余分にある人の状態のことです。

染色体は、体内の遺伝子の "パッケージ" で、成長に伴い赤ちゃんの体がどのように形成され、どのように機能するかを決定します。

約800人に1人の割合で、ダウン症のある赤ちゃんが生まれます。ダウン症は自然に発生するもので、原因はわかっていません。

通常、ダウン症は様々な程度の知的・身体的な障害と、それに伴う医学的な問題を引き起こします。



親になる

出生前検査

多くの国では、全年齢の妊婦を対象に、ダウン症のスクリーニング検査が提供されています。

超音波検査は、赤ちゃんにダウン症がある可能性が高いときに現れる兆候を示すことができます。

特定の血液検査でも、赤ちゃんにダウン症がある可能性が高いかどうかを検出することができます。

超音波検査や血液検査は、どちらも診断を確定するものではありません。これらは、ダウン症のある赤ちゃんが生まれる可能性についての情報を提供することができるのみです。



診断を確定するためには、胎児の組織や体液のサンプルを採取する検査が必要です。これらの検査を受けるかどうかは、あなた自身の選択です。

多くの国で、医療の専門職は、女性が十分な情報を得た上で、自分たちにとって正しいと思う決断ができるよう支援するための訓練を受けています。



診断結果の説明

いくつかの国では、医療の専門職は、ダウン症の診断をどのように伝え、説明するかについて訓練を受けています。

診断の告知には衝撃を受ける可能性があり、家族がしばらく様々な感情をいただくことは少なくありません。

赤ちゃんの誕生

赤ちゃんのご誕生、おめでとうございます。

健康であれば、必要なことは他の赤ちゃんと同じです。この段階では、何か他の赤ちゃんと違ったこと、特別なことをする必要はありません。

赤ちゃんの健康

ダウン症のあるお子さんに、より一般的にみられる症状がいくつかあります。このことを知っておくこと、可能であればこれらについての検査を受けておくことが大切です。国によっては、これを確実に行うための体制が整っています。



地域のサポート

地域で他の親に会うことで、気持ちを分かり合える人たちから、本当に必要としている精神的な支えやアドバイスを受けることができます。

赤ちゃんへの授乳や離乳食の介助

多くのダウン症のある赤ちゃんは、生まれたときから母乳を上手に飲むことができます。しかし、授乳に影響するような医学的な問題を抱えている赤ちゃんもいます。

ダウン症のある赤ちゃんの離乳食は、他の子どもの離乳食とほぼ同じですが、吸うこと、噛むこと、飲みこむことを習得する時期が遅いことがあります。

ダウン症のある赤ちゃんの中には、さまざまな食感に特に敏感で、なめらかな食形態や慣れ親しんだ味を好む子もいます。一番大切なのは、他の子どもたちと同じように健康的でバランスのとれた食事を提供することです。

離乳食について心配なときやアドバイスが必要なときは、離乳食の専門家である保健師（health visitor）や言語聴覚士など、資格を持った専門家に相談してください。



発達

ダウン症のある子どもたちは、それぞれ異なる速度、異なる方法で発達していきます - 彼らは、それぞれが自分の強みや興味、才能、ニーズを持っています。

そして、家族、学校、地域社会の一員となることによって支えられます。

やり方を見せてもらったり、楽しく練習したりすることで、新しい技術を習得することもできます。

他の子どもたちと同様に、彼らにとっても、家庭や学校での高い期待とサポートが助けになるのです。



早期介入

「早期介入」（言語聴覚療法や理学療法を含む）で、ダウン症のある子どもの発達を促すことができます。

お住まいの地域でどんな支援が受けられるか、主治医、地域の医療専門家や支援ネットワークに尋ねてみてください。お子さんが受けることができる支援は、お子さんそれぞれのニーズと地域の状況によって異なります。

赤ちゃんの発達を促すために、 私たちに何ができるでしょう？

赤ちゃんと向き合ってやり取りをすることは、赤ちゃんの学習を促す最も良い方法のひとつです。赤ちゃんが出す声や表情を真似して、赤ちゃんがあなたに反応するのを待ちましょう。根気よく続けるのです。新しい表情や音、触れたり感じたりできるものを見せて、赤ちゃんがそれにどう反応するかをみてみましょう。

一緒に遊びましょう。お子さんの遊びに導かれつつ、敏感に反応を返すことによって、学習をサポートします。お子さんの世界に入り込む、同じおもちゃで遊び方を真似する、子どもが楽しんでいることを繰り返す、やり取りをする、自分が楽しんでいる様子をお子さんに見せる、生き生きと思いっきり遊ぶ、などは、子どもの学習を助ける方法のほんの一例です。



一緒に遊びながら、次のステップを示し、自分を真似するようお子さんを促します。ダウン症のあるお子さんは、見せてもらうことで特によく学ぶということがわかっています。

ダウン症のあるお子さんにとって最も重要な経験は、幸せで愛情に満ちた活発な家族の一員であること—そして家族がいつもしていること全てを行うことによってもたらされるのです。

健康

すべての人は、差別されることなく、到達し得る最高の健康水準を享受する権利を有する。

国連障害者権利条約(CRPD)第25条(健康)。

ダウン症のある人々にとって、これは以下の場合に実現することができます。

- 健康に対するあらゆる診断は、いかなる偏見や差別もなく、提示されているもののみに基づいていること
- 必要なときに、適切な定期診察や治療が行われること。
- 自分の健康管理の必要性を理解し、自分自身で選択できるように支援されること。

これは、私たちが、誰にとってもそうあるべきと望んでいることです。



子どもの健康

心臓の病気

ダウン症のある赤ちゃんのおよそ半分に心臓の異常が見られますが、深刻な問題があるのは5人に1人以下です。

早期治療が必要な場合があるため、生後2ヶ月の間に深刻な問題を発見することが重要です。英国ダウン症医学研究会（DSMIG）は、ほとんど全ての深刻な病気を診断するために生後6週間までに心エコーを含む正式な心臓機能評価を実施することを推奨しています。



視力

ダウン症のある子どもたちに影響を与える可能性のある目の問題は、どんな子どもたちにも同じように起こりうるものですが - より頻繁に、時にはより顕著に起こる傾向があります。したがって、彼らの目をチェックすることは、特に重要です。

耳と聴力

耳と聴力は、年に一度の健康診断で調べる必要があります。

ダウン症のある子どもの多くは、小児期に滲出液を伴う中耳炎(glue-ear 耳管の粘液閉塞)を発症します。その場合、換気チューブ (グロメット) による治療が行われることがあります。中耳炎は、通常、思春期ごろには治りますが、人によってはそれ以降も続くことがあります。

聴覚過敏は、ダウン症のある人に多くみられます。聴覚過敏とは、音に対する感受性の鋭敏さのことです。ほとんどの人が我慢できるような音でも、痛みや不快感を感じる場合があります。疑いがある場合は、(聴覚訓練士audiologist) に相談することをお勧めします。



甲状腺障害

甲状腺の問題は、一般の人よりもダウン症のある人によく見られます。

ダウン症のある赤ちゃんは、生後6週間以内に定期的な血液検査を受け、1歳の誕生日を迎えたら、スクリーニング血液検査を受ける必要があります。ダウン症のあるお子さんは、少なくとも2年に1度、血液検査を受けましょう。

睡眠障害

睡眠障害は、ダウン症のあるお子さんによくみられるものです。これらには、行動的な問題、身体的な問題（睡眠呼吸障害に関連するもの）、またはその両方が組み合わさったものがあります。

睡眠呼吸障害の特徴は、睡眠中に呼吸が繰り返し止まることです（睡眠時無呼吸症候群と呼ばれることもあります）。

他の根本的な問題がないかどうか専門家による検査を受けるとよいでしょう。



セリアック病

セリアック病は、腸が食べ物から特定の栄養素を吸収することができないという吸収不良の一種です。ダウン症のある人に多くみられます。

セリアック病の治療は、グルテンを除いた特別な食事療法によって行われます。管理栄養士による指導を受けましょう。

てんかん

てんかん性痙攣は、稀にみられるてんかん発作で、ダウン症のある子ども約5%に起こります。

通常は生後3カ月から6カ月まで、遅くとも12ヵ月までに起こります。

ご家族は、お子さんの頭が突然前に倒れることに気がつくかもしれません。時には、腕や足も素早く動いてしまい、お子さんが動揺してしまうこともあります。(このような動きは非常に短いものですが(1秒以内)、いくつかの動きがほぼ同時に起こる「クラスター」と呼ばれる現象が起こることがあります。これらのクラスターは、子どもが眠りから覚めた後に起こる場合があります)



頸部の不安定性

背骨の上部と頭蓋骨の底部にある関節によって、私たちは首を振ったりうなずいたりすることができます。ダウン症のある人の場合、靭帯(骨と骨をつなぎ、関節を支える組織)がより伸縮します。そのため、関節がゆるんで動きやすくなり、椎骨(脊髄を取り囲み保護する骨)がすべりやすくなることがあるのです。

成人の健康

心臓の病気（心疾患）

心臓の病気は、ダウン症のある人にとってもよくみられます。

生涯を通じて、定期的に診察を受ける必要があります。これにより、これまで診断されていなかった心臓の病気や、新たに発症した病気の迅速な診断と管理が可能になります。



視力

ダウン症のある成人に起こる眼の病気は、ダウン症に特有のものではありません - すべて一般の人にも起こります。しかし、いくつかの病気は、ダウン症がある場合に発症しやすくなり、あるいはダウン症でより若い年齢に起こります。

耳と聴覚

ダウン症のある人には、早期発症の加齢性の難聴（早期発症の老人性難聴）がよくみられます。聴力低下は、成人期初期に始まることがあります。年に一度の聴力検査で、難聴の発症を発見することができます。



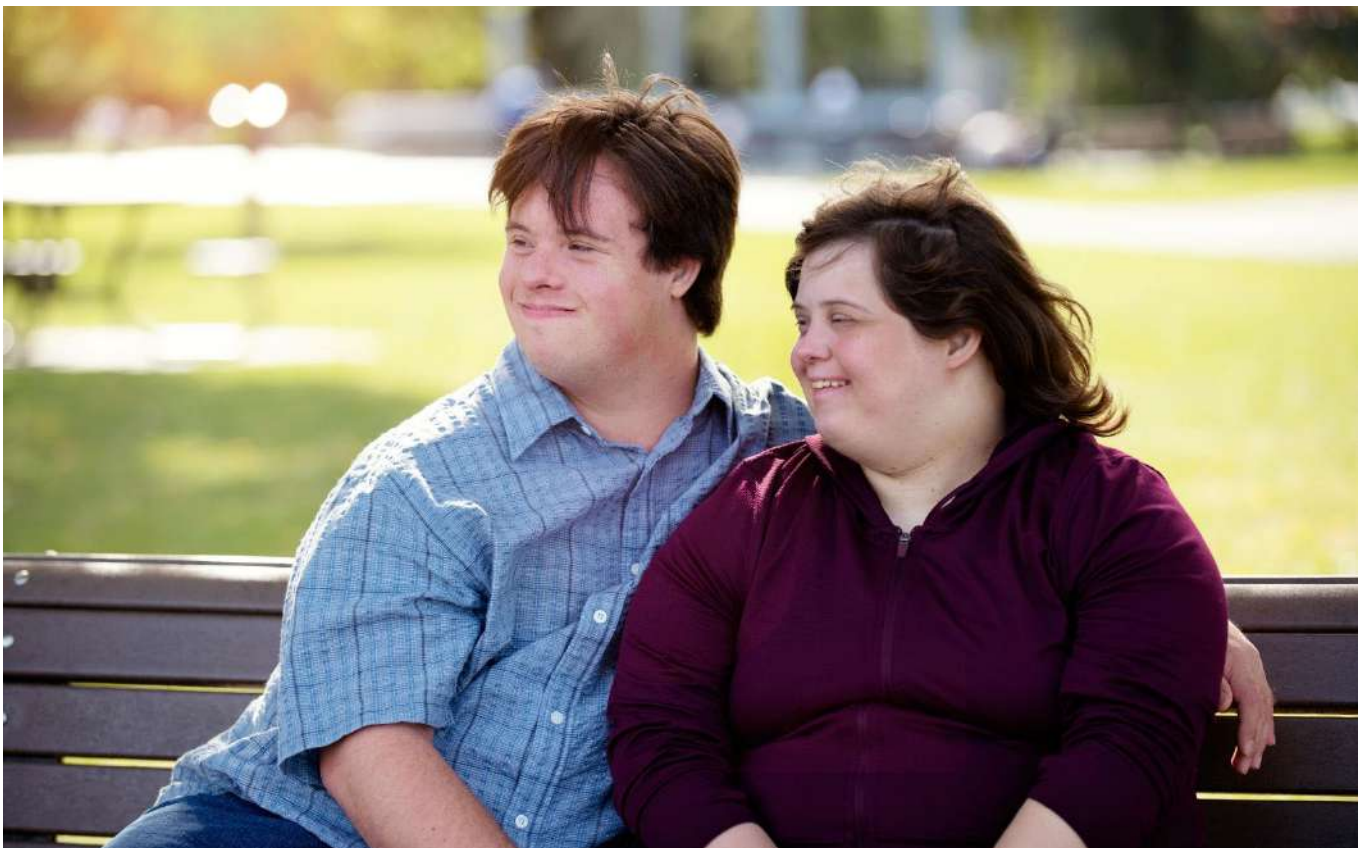
甲状腺の病気

甲状腺の問題は、一般の人よりもダウン症のある人に多くみられます。ダウン症のある人は、生涯を通じて定期的なスクリーニング血液検査が必要です。

性の健康

知的な障害のある人々は、自立すること、人生をコントロールすること、そして人生の選択の権利に基づく充実した平等な生活の重要な一部として、感情や性的関心を表し、人間関係を発展させる権利を持っています。

弱い立場にある子ども、若者、大人を保護することは大切ですが、そのために、愛し愛されること、友人を持つこと、自分の性的関心を示すこと（彼らに合った、受け入れられる方法で）といった人間としての欲求を尊重することを犠牲にすべきではありません。



メンタルヘルス（心の健康）

ダウン症のある人の多くは前向きな精神的健康の状態にあり、精神的不調の徴候を示すことはありません。

しかし、ダウン症のある人たちを、より精神的な不調に陥りやすくする特定の要因があります。ある種の生物学的な違いや、ダウン症のある人には対処しづらい日常的なストレスによって、気分や感情などのメンタルヘルスの問題を抱えやすくなっている可能性があります。

うつ病

うつ病は、少なくとも一般の人と同じようにダウン症のある人にもよくみられ、受ける影響も同じです。

うつ病を経験したすべての人と同じように、助けを求めることが重要です。ダウン症があるという理由だけで落ち込むのは通常のことではありません。忍耐強くいること、うつ病は病気であること、そして、治療とサポートによってほとんどの人が良くなることを忘れないでください。



てんかん

ダウン症と認知症を併せ持つ人の80%以上が発作を起こします。これは、認知症の症状として現れることがあります。

アルツハイマー病

アルツハイマー病は認知症を引き起こします。その症状には、思考の障害、言語の障害、意識不鮮明が含まれます。

ダウン症のある人がアルツハイマー病になるリスクは、一般の人と同じように年齢とともに増加しますが、ダウン症のない人の場合より30年から40年早く発症します。



教育

すべての子どもは、包摂的で公平な質の高い教育が提供されるべきである。

国連障害者権利条約（UNCRPD, United Nations, 2006）第24条（教育）

ダウン症のある子どもたちにとって、この教育は以下の場合に実現することができます。

- ・分離、排除されることなく、一般の教育現場に完全に参加できる環境があること。
- ・それぞれの子どもが学習を支援され、他の子どもと同じように学ぶ機会を与えられること。そして
- ・すべての子どもが、好奇心を育て、友だちを作り、自信と自立心を身につける機会を持つこと。

これは、私たちが他のどんな子どもに対してもそうあるべきと望んでいることです。



ダウン症のある学習者の教育のための 国際的なガイドライン

DSi(Down Syndrome International)は、「ダウン症のある学習者の教育のための国際ガイドライン」を策定・公表しています。

このガイドラインは、世界中のダウン症のある人々のための教育の可用性と質を向上させ、インクルーシブ教育と生涯学習を受ける権利の実現に貢献するために作成されました。

ガイドラインは、www.ds-int.org/education でご覧いただけます。



インクルーシブ教育

世界中のダウン症のある子どもたちが、地域のプレイグループや保育園、一般の学校に通い、定型発達の子や友達と一緒に社会活動に参加することは、徐々に当たり前のことになりつつあります。また、ダウン症のある青年たちが資格を取得し、経験を積むようになることによって、一般のさまざまな仕事で活躍することも増えてきています。



ダウン症のある子どもたちの大半は、地域の一般校に入学し同年齢の定型発達の子と一緒に教育を受けることで、良い影響を受けられるでしょう。調査によると、一般の学校に通うダウン症のある子どもたちは、特別な学校に通う同じような能力の子どもたちよりも、少なくとも同等以上の良い成果を示すことが分かっています。普段から一般的な発達の子と一緒に学び、交流し、遊ぶ機会は、ダウン症のある子どもたちが年齢に応じた行動を取り、人間関係を維持するための、お手本を示すことになるのです。また、地域の学校に通うことで、学校外で会う子どもたちと友達になる機会も得られます。

学習を進めるためにサポートが必要な場合もありますが、インクルージョン環境が整っていれば自立が促進されます。年齢が上がるにつれてカリキュラムの履修内容が高度になるかもしれませんが、必要なときに手助けやサポートを受けながら、徐々に学校内の一員としての役割を果たすようになるはずです。

インクルーシブ教育は、ダウン症のある子どもだけでなく、地域社会、さらには社会全体のより深い理解や偏見の減少にもつながります。インクルーシブな学校に通う子どもたちは、より寛容で忍耐強くなり、お互いを支え合うことを学びます。また、多様性を大切にすること、誰もが学校生活に貢献できる何かを持っているということへの理解も学ぶのです。



ダウン症のある人の学習特性

一般的に、ダウン症のある子どもは同年代の子どもに比べ、よりゆっくり発達し、各発達段階に到達する時期が遅く、そこにとどまる時間も長くなります。その結果、ダウン症のある子どもと同年齢の子どもとの差は、年齢を重ねるに従い広がっていきます。遅れの程度は、運動、社会性、コミュニケーション、認知、自助など、発達の分野によってさまざまです。これは、ダウン症に関連した特定の学習特性 - または強みと弱みのパターンとして知られています。しかし、ダウン症のある子どもたちも、定型発達の子どものように、発達や進度に大きな差があり、それぞれ個々の才能や適性があるのです。



ダウン症のある子どもたちが知識を深め、新しいスキルを学び、できるだけ効果的に学校に溶け込めるのに最も適した方略を用いるためには、この特異な学習特性を理解することが重要です。この特性には、次のような強みと弱みがあります。

強い分野

- ・ 強い視覚的認知と視覚的学習能力
- ・ 手話やジェスチャー、視覚的サポートを学び、使用する能力
- ・ 書き言葉を学び、使用する能力
- ・ 絵や具体物、実践的なものから学ぶ能力
- ・ 他者とのコミュニケーションや社交への関心
- ・ 仲間や大人の行動、態度を模倣する傾向
- ・ 構造と習慣



学習を阻害する要因

- ・ 聴覚・視覚障害
- ・ 運動能力の遅れ - 微細運動と粗大運動
- ・ 言語障害
- ・ 短期記憶と作業記憶の弱さ
- ・ 集中できる時間の短さ
- ・ 情報統合・情報保持困難
- ・ 一般化、思考および推論の困難
- ・ 優先順位付けの難しさ
- ・ 困難を避ける方略の使用（回避戦略）



学校での特別なサポート

ほとんどのダウン症のある子どもは、学校の既存のサービスから通常得られる以上の支援を必要とします。

国によっては、地方自治体が学習に困難のあるすべての子どもの教育的ニーズの評価を設定し、個々のニーズと要件をまとめた文書を作成することがあります。

多くの国で、学校には、特別なニーズを持つ子どもたちのために、必要に応じてカリキュラムを調整する義務が課せられています。これは、教室でより多くの手助けをすること、視覚的な教材をより実践的に使うこと、同じ内容でより簡単な作業が提供されることなどが含まれます。

ダウン症のある子どもたちには、一般的に、言葉の問題への対応として言語療法が有効だとされています。

すべての子どもたちは個別の異なったニーズを持っており、全てのダウン症のある子どもたちにぴったりの唯一の「サポート・パッケージ」はありません。



雇用

誰もが包摂的な職場で働ける機会を持つべきでしょう。

国連障害者権利条約（UNCRPD, United Nations, 2006）の第27条（仕事と雇用）

ダウン症のある人にとってこのことは実現しうるのです。もし、

・雇用者によって、働く機会が、オープンな環境で、分離や排除なしに提供されたら

・就職活動、就業、キャリア形成に必要なサポートを得られるなら

・自分が何か貢献することができ、良好な職場関係を築き、自信と自立を得る機会をもつなら

このことは、現在、仕事上の壁に直面しているすべての人にも当てはまります。



人権

締約国は、障害者が他の者との平等を基礎として労働についての権利を有することを認める。この権利には、障害者に対して開放され、障害者を包容し、及び障害者にとって利用しやすい労働市場及び労働環境において、障害者が自由に選択し、又は承諾する労働によって生計を立てる機会を有する権利を含む。

国連障害者権利条約第27条（労働と雇用）

就職を阻む壁

ダウン症や知的障がいのある人は、固定観念や間違った思い込み、否定的な考え方が組み合わさって、就職を阻まれることが少なくありません。また、こうした考え方に関連して教育や訓練を受けていないことも、就職に不利な要因になり得ます。



ダウン症の人が働くことのメリット

就労は、収入を得て生活環境をよりよくすることに加え、一体感、自立、献身、帰属などの意識をもたらし、今まで以上の人間関係や興味関心を広げることによって、人生を豊かにします。

企業や組織にとってのメリット

ある調査によると、ダウン症のある人は忠誠心を備え、職場の士気を高め、他の従業員よりも同じ職場にとどまる傾向があります。

職に就き、就労に対する支援を受けることで、彼らは事業の発展に貢献するだけでなく、同僚や職場全体の雰囲気に対し好影響を与えることができるのです。



支援と訓練

ダウン症や知的障害の団体の中には、就労の権利を擁護するだけでなく、就労機会の促進に関わる活動しているところもあります。

適切な仕事への就労を支援し、サポートや研修・訓練のプログラムを提供しているところもあります。

これらのプログラムの中には、ダウン症のある従業員のための訓練に加えて、雇用する側の組織とスタッフ向けの研修もあります。このような取り組みによって、雇用に対する不安や障害に対する否定的な態度を和らげ、組織全体がより包括的になることが明らかになっています。

あなたの国にある団体へ連絡を取ってみてください。

連絡先の詳細は、「グローバルコンタクト」ページでご覧いただけます。

www.ds-int.org/Pages/Category/global-contacts



アドボカシーと人権

人権とは?

ダウン症のある人も他の人と同じように人権があります。

人権は、生まれてから死ぬまで、世界中のすべての人に属している基本的な権利と自由のことです。どこの国の人であるか、何を信じているか、どのような生き方を選んでいるかにかかわらず、適用されます。

法律に違反した場合や、国家の安全保障のために制限されることはありますが、決して奪われることはありません。

こうした基本的権利は、尊厳、公正、平等、尊重、自立といった共通の価値観に基づいています。これらの価値は法律で定義され、保護されています。

障害者の権利に関する条約（CRPD）は、国際的な法的合意です。障害者の人権を保護し、促進するために存在するものです。



障害者の権利に関する条約

国連障害者権利条約（CRPD）は、すべての障害者がすべての人権と基本的自由を完全かつ平等に享受することを促進、保護、確保し、その固有の尊厳の尊重を促進するために存在します。

この条約は、既存の人権条約が障害者の権利を促進し保護するための大きな可能性を持っているにもかかわらず、その可能性が生かされていない現状への対応として採択されました。障害者は、世界のあらゆる地域で、その人権を否定され続け、社会の周縁に置かれてきました。

この条約は、加盟国が障害者の権利を促進し、保護するための法的義務を定めています。 .



セルフアドボカシー

セルフアドボカシーは、自分自身と自分にとって大切なもののために発言する能力のことです。

セルフアドボカシーは、自分が必要なものや欲しいものを求め、自分の考えや気持ちを人に伝えることができることを意味します。

セルフアドボカシーは、自分の権利と責任を知り、自分の権利を主張し、自分の人生に影響を与える選択と決定を行うことができることを意味します。

セルフアドボカシーの目標は、あなたが自分の望むものを決め、それを手に入れるために計画を立て、実行することです。必要なときに助けを得られないというわけではなく、自分で選択し、その選択に責任を持つことを意味します。



セルフアドボカシーのスキルを身につければ、よりコントロールしやすくなり、自分にとって最適な人生の決断をすることができます。セルフアドボカシーは、自分自身のために発言し、自分の人生について決定する力を与えるのに役立ちます。

ダウン症のある人が力のあるセルフアドボケイトになるには、擁護者のサポートが必要な場合があります。

DSiは、世界中のダウン症のセルフアドボケイトと協力して、彼らの人生について学び、サポートを提供する最善の方法を決定しています。



アドボカシー

アドボカシーは、ダウン症のある人々とともに、または人々を代表して、問題を解決したり、必要な支援を得たり、慣習や政策変更を促すために行動することを指します。

アドボカシーは、ダウン症のある人々の市民権と人権を促進し、保護し、生活の質を確立、維持、または向上させるために不可欠なものです。個人も組織も、ダウン症のある人たちのアドボケイトになることができます。

DSiは、世界中のダウン症の人々の生活の質を向上させ、コミュニティの大切かつ平等な一員として受け入れられ、一員として内包される、という生来の権利の促進を最終目的としています。そのために、世界各国の擁護者と協力し、知識を共有し、情報、アドバイスや支援を提供しています。



インクルーシブな参画

誰もが、自分に影響を与える意思決定に関与する権利を有する。

国連障害者権利条約第4.3条（一般的義務）

知的障がいのある人には、参画する権利、内包される権利があります。私たちはこれを「インクルーシブな参画」と呼んでいます。

それは、次のようなことを意味します。

- 自分が理解できる方法で情報を得ること；
- 他の人と同じように、アイデア、経験、知識を共有することができる；
- 参加するために必要な時間や調整があること。

簡単に言えば、インクルーシブな参画とは、障壁を取り除くことです。



インクルーシブな組織

組織は、あらゆる活動に障害者が関与できるようにしなければなりません。

組織で重要な役割を果たそうとしても、妨げる障壁に多くの人が直面しています。

そのような役割には、以下のようなものがあります（ただし、これらに限定されるものではありません）：

- リーダーシップとガバナンス
- 活動やプロジェクトの立ち上げ
- すべての人が理解できるような情報を発表したり、発信したりすること。

すべての組織は、意思決定にすべての人が参加することを目指すべきです。

これは、適切なプロセスがあり、成功したいという強い真の思いがあれば、どのような組織でも達成することができます。

聞く、包含する、尊重する。

DSiはインクルージョン・インターナショナルと協力して国際的なガイドラインを作成し、組織がインクルーシブな仕事をできるようにすることを目指しています。

詳しくはListen Include Respectのウェブサイトをご覧ください -

www.listenincluderespect.com/



研究・調査

ダウン症のある人に関する研究・調査は、様々な分野で進められています。DSiは、世界中の会員や研究グループと協力し、ダウン症に関する知識を深めています。

私たちの役割は、世界のダウン症コミュニティを代表し、重要な最新情報をコミュニティに助言することであり、以下の組織およびそのメンバーと協力しています。

トリソミー21研究会(T21RS)

T21RSは、ダウン症の研究者による科学的組織で、基礎および応用研究を促進し、トランスレーショナルリサーチを促進、新しい科学的知識を適用してより良い治療法を開発することを目的として設立されました。

国際知的発達障害科学研究協会 (IASSIDD: International Association for the Scientific Study of Intellectual and Developmental Disabilities)

ダウン症に関する特定の関心をもつ研究グループは、IASSIDDに属し、DSiと連携して、ダウン症分野の研究とその応用を振興しています。

ダウン症コンソーシアム - 米国国立衛生研究所 (National Institutes of Health)

米国を拠点とするNIHとダウン症に関心のある団体のコンソーシアムで、ダウン症の研究、サポート、ケアに関する情報交換を促進するために結成されました。DS-CONNECTレジストリを含む。Research relating to people with

世界ダウン症の日

世界ダウン症の日（WDSD）は、2012年に国連によって公式に制定された世界的啓発の日です。

毎年3月21日に、ダウン症コミュニティが、ダウン症の人々の権利、インクルージョン、幸福を擁護するために、一丸となって共通のグローバルな声を上げます。

WDSDのウェブサイト（www.worlddownsyndromeday.org/）で詳細をご確認ください。



www.worlddownsyndromeday.org

ダウン症インターナショナルについて

ダウン症インターナショナル (DSi) は、英国を拠点とする国際的な障害者団体です。

私たちは、セルフアドボカート、(セルフアドボケイト)、ダウン症の人々を代表する組織、その他の国際的な障害者団体のグローバルネットワークと連携しています。

私たちは、ダウン症の人々の生活の質を向上させ、他の人々と完全に平等な立場に置かれる権利を促進することに尽力しています。

ご寄付

皆様の寄付は、世界中のダウン症の人々の生活向上に役立ちます。皆様のご支援なくして、この重要な活動を継続することはできません。すべてのご寄付に大変感謝しています。

www.ds-int.org/donate-today

